

氏名	岡田 智博
ヨミガナ	オカダ トモヒロ
学位の種類	博士（学術）
学位記番号	博音第242号
学位授与年月日	平成26年3月25日
学位論文等題目	〈論文〉 I T関連クリエイティブ産業の発展と創造クラスターの相関関係～ アムステルダム・札幌・モントリオールの都市事例を中心に

論文等審査委員

（主査）	東京藝術大学	教授	（音楽学部）	熊倉 純子
（副査）	東京藝術大学	准教授	（音楽学部）	市村 作知雄
（副査）	東京藝術大学	准教授	（音楽学部）	毛利 嘉孝
（副査）	東京藝術大学	准教授	（音楽学部）	丸井 淳史
（副査）	東京藝術大学	教授	（音楽学部）	塚原 康子
（副査）	埼玉大学	教授	（経済学部）	後藤 和子

（論文内容の要旨）

○ 概要

本研究は、1970年代のパーソナルコンピューティングの登場に端を発し、現在も続く世界規模のITの普及と発展において、世界各地で「創造クラスター」が生まれていたこと、およびその創造クラスターのなかで文化芸術活動が大きな役割を果たしてきたことを明らかにするものである。

ここでいう創造クラスターとは、表現者や芸術家、技術者や文化活動家（アクティビストなどを含む）たちによる、創造性の多元的な積み重ねをもたらす人的集積のことを指す。

○ 本研究のねらい

本研究で着目するのは、ITを用いた先駆的な表現が社会で一般化するうちに、生産／創作に区分けされ、産業や芸術にも属さない「なにか」による創作が生まれてきている点である。ITの世界では、今までの創作者と鑑賞者、プロフェッショナルとアマチュアといった二元的な関係ではない、ユーザーという存在が重要となってくる。ユーザーたちは、消費するだけの存在だけでなく、新たな創作を行なう人々でもある。

近年、日本の音楽にイノベーションを起こした「初音ミク」は、まさに無数のユーザーたちが創作と鑑賞の連鎖を行なうことで、「ボカロ音楽」という名の新たなジャンルをわが国の音楽界とコンテンツ産業にもたらすことになった。そこには、プロとアマの垣根すらなく、意外なヒットが次から次へと生まれている。

このような現象は、今や特別な現象ではない。ITの世界では、ユーザーが生み出す価値が、世界を一変させるサービスになることが、普通のものとしてとらえられている。今まで、産業にも文化にも峻別されず、「おたく」や「ハッカー」などといわれて来た「なにか」が、創造の主役となりつつある。

本研究では、「コンテンツ」や「メディア芸術」、「電子芸術」の創作物によって理解されうるアーティストだけでなく、産業からも文化政策からもこぼれ落ちた存在が、実はIT産業やメディア文化の創造的発展にはなくてはならない存在であり続けてきたことを、明らかにしていく。「コンテンツ」「メディア芸術」あるいは「それ以外のもの」と区別してしまうことから生まれる、偏見にも近い視座を払拭し、ITにおける創造的な活動を、他の表現活動と同じく文化や社会との関わりあいにおいて捉えることで、どのような新たな視座が開けるのか、その可能性を模索するのが本研究の目的である。

特に、IT関連のクリエイティブ産業を創出し発展させる重要な要素である「創造クラスター」の地域的形成において、これらの「それ以外のもの」の存在や活動は必要不可欠なものである。本研究では、①ITにお

ける創造の担い手と、②その創造を促進させる地域コミュニティとしての「創造クラスター」、③ITおよびクリエイティブ分野における文化的、社会的、産業的発展、この三者の相関関係とは具体的にどのようなものなのか、を明らかにしていく。

○ 研究の流れ

本研究では、創作と経済を結ぶ新たな産業であるクリエイティブ産業を軸に、同産業の存在を浮き彫りにしてきた、知識集約型産業における「産業クラスター」研究と「創造都市」研究を軌軸に、通常の産業集積とは異なる、文化の面からの制度的厚みを伴った創造の集積「創造クラスター」の存在を先行研究から解き明かして行く。

その上で、世界にクリエイティブ産業と新たな創作のイノベーションを巻き起こした3つの都市における「創造クラスター」の成り立ちを分析、発展する創造クラスターの要因を明らかにしてゆく。

取り上げる3つの都市とは、「初音ミクを生み出した札幌」、「メディアアートを通じて世界の映像表現を変えたモントリオール」、「創造的なアクティビズムで新たなメディアの活用法を世界に広げるアムステルダム」である。いずれも、アートワールドの世界地図から見ても、産業から見ても、見落としがちな都市が、世界を変える創造性を持つ理由を探るうち、そこに「なにか」の存在があることが明らかになって行く。

分析を通じて、筆者は発展できる創造クラスターの3つの要因を提起する。それは、(1) その地域の人々が取り組んだ新奇な活動であっても受容できる寛容性があること、(2) これら新たな取り組みをする人々が地域の中で関係性を構築することの出来る「ミドルグラウンド」の存在、(3) 成長とともに非営利な文化活動と産業の両面で自立的発展を促すことができるボトムアップの制度的構造、である。

さまざまな新たな表現を地域に受け入れ、相互に評価をしあい、新たな創造の結びつきを生み出すこれら3つの要因を持ったクラスターから、「なにか」は一つの文化の担い手となり、新たな産業と社会のきっかけをつくり出す。マイコンからインターネット、初音ミクまで、新たな創作を文化や産業に高めた各都市の経験から、これからの創造的地域の形成を俯瞰する。

(総合審査結果の要旨)

本論は、IT系文化産業の基盤となる創造クラスターに着目し、従来の産業論や文化経済学の先行研究では詳らかにされなかった創造クラスターの実態を描き出す試みで、ロンドンや東京、シリコンバレーといった巨大集積地以外の都市でも、文化的な創造クラスターが産業基盤として大きな寄与を果たしていることを、札幌、モントリオール、アムステルダムの3都市を調査対象に、詳細かつ克明に描き出した独自性に富む労作である。

第一部では従来の産業クラスター論や創造産業クラスター論の知見を概観し、文化経済学の多くの先行研究が「創造の場」や「制度的厚み」の重要性に言及しながらも、その実態が明示されていないことを指摘し、世界各地で形成されている創造クラスターについて地域型分類を提示しつつ、その発展形態を論じている。

第二部では、今日世界的に重要な文化現象として注目されている「初音ミク」などのヴォーカロイドを生み出した札幌、映像系高等教育機関や若い才能を発掘・育成する教育セミナーの充実で映像系ゲーム産業が集積し、高度なIT技術を創出しつつ演劇・音楽・映像などの芸術作品へと転化するモントリオール、ラジオやテレビなどのメディア創世記から市民による自由活用が盛んで、政治的なアクティビズムと結びついてコンピュータ技術を市民に開放し、技術と社会の未来像を文化人たちが提言してきたアムステルダムの3都市を取り上げ、それぞれに文化政策・産業政策の歴史的な変遷、およびアーティストやクリエイター、市民たちの自発的な活動が厚みのある「ミドルグラウンド」を形成した様子を克明に描いた歴史的証言で、我が国の国・自治体の短絡的な産業誘発政策、あるいは作品発表のみに着目した文化政策への重要な批判を多く含んでいる。

審査会では、産業論や経済学では扱いきれない「場の生成」の様子を、文化環境論の立場から論じている点を高く評価しながら、1) 独自の学術的な立脚点の論述が不足している点を補って、多くの分野に影響を

与えうる本研究の価値を明確化する必要性、2) および長年に及ぶ三都市の事例調査の方法を各章で具体的に明示して学術的な信頼性を高める必要性などが指摘されたが、本論が詳らかにした歴史的資料価値の重要性および今後の政策に対する示唆に富むことを総合的に評価して、合格と認めた。